

1 教育目標

努力 責任 健康

2 学校教育の努力点と推進計画

(1) 努力点主題

「仲間とともに、主体的に歩む」

～ 自己選択、自己決定、自律する生徒・寄り添う職員集団 ～

(2) 主題設定の理由

令和6年度は「ナゴヤ学びのコンパス」を受け、学習・生活・特活の三分野において、右記の目標を設定して実践に取り組んだ。

学習…対話的な学びの機会の増加・充実
生活…粘り強く生徒自身に考えさせる指導の実践
特活…生徒が主体的に行う学校行事へ

生徒が回答したアンケートを分析すると「理解度に応じて個別対応した授業や、対話を通して仲間と協力しながら学びを進める授業に参加しているか」については「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた生徒が数%増え、「昨年度までの学校行事と比較して、主体的に取り組めるものであったか」については、9割ほどの生徒が「そう思う」「ややそう思う」と答えていた。特に令和6年度から始まった新たな行事である本城祭については「来年度の本城祭で舞台発表や制作発表、企画・運営委員をしてみたいと思いますか」という問いに対して、アンケートに回答した生徒のうち約75%もの生徒が何かしらに関わりたいたいと答えていた。

以上のような成果を踏まえ、令和7年度については特に生徒の変容が大きかった「特活」の取組に焦点を絞り、企画段階から教師や仲間と対話しながら行事をつくり、自分自身が参加する内容を選択・決定していくなかで「仲間とともに、主体的に歩む」生徒を育てていきたいと考えた。

(3) 本年度の取組

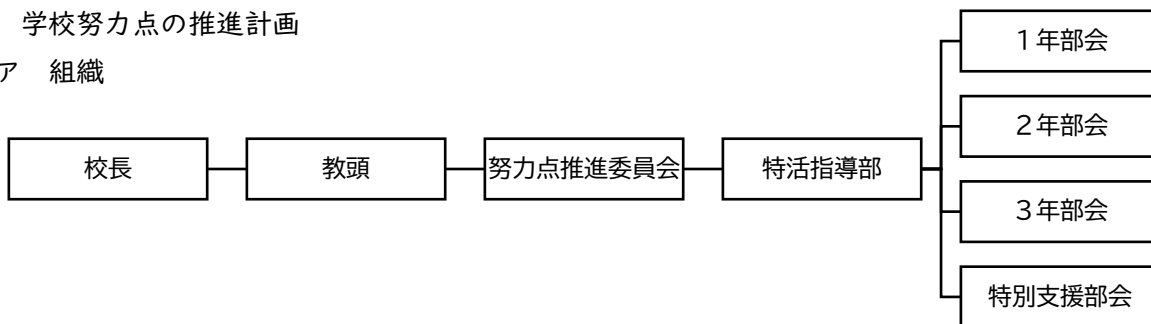
本城祭と体育祭について1学期の段階から取組を始め、生徒と対話しながら共に行事を作っていくことで、「生徒がもっと主体的に行う学校行事」を目指したい。そのために行う取組の例として以下の内容について実施を検討していく。

本 城 祭	体 育 祭
・ 最上位の目標として「自分の好き、得意、やりたいことを突き詰めよう、認め合おう」を掲げる。 ・ 生徒会執行部を中心としつつ、実行委員を募集し、当日までの企画や運営を行う。 ・ 演奏やコント、一芸披露などを軸とした舞台発表や立体作品や平面作品を軸とした制作発表を行う。	・ 最上位の目標として「運動が得意な人も、苦手な人も楽しめる体育的行事」を掲げる。 ・ 種目については競技性を求める「チャレンジ部門」、運動が得意でも苦手でも楽しめる「フェス部門」の2部制とする。 ・ 運営について、5月より実行委員を募り、中心となる生徒を決め、その生徒と一緒に企画を検討する。

提案は特活指導部が中心ではあるが、実際の指導については校務分掌を含め、役割分担を行い、全教職員で生徒と対話しながら、取組に伴走する意識をもって指導にあたる。

(4) 学校努力点の推進計画

ア 組織



イ 進め方

- ① 職員会議、努力点推進委員会にて、方向性や取組について提案し、進捗を確認する。
- ② 特活指導部を中心として取組内容の検討を行い、各学年部会で実行する。
- ③ 必要に応じて努力点推進委員会を開き、連絡調整を図る。

ウ 検証・評価

各行事後に行うアンケートや、12月頃に実施予定である学校生活振り返りアンケートにおいて、「体育祭」「本城祭」について振り返る項目を設定し、実際の取組と成果について検証・評価する。

参考資料 ナゴヤ学びのコンパス



令和7年度の取組において、どの学校園でも大人が大切にしたいことである「子ども一人一人の思いや願いを尊重する」「子どもと対話する」「子どもの自分なりのチャレンジを大事にする」ことを特に意識し、生徒と関わるようにする。